

平成28年 9月28日

宗像市議会

議長 吉田 益美 様

建設産業常任委員会

委員長 小島 輝枝

## 所管事務調査報告書

本委員会は、下記のとおり所管事務調査を行ったので、宗像市議会  
会議規則第110条の規定により報告します。

記

**【調査期間】** 平成28年8月

**【調査事項】**

- ・大井貯水池対策事業
- ・大井ダム跡地整備事業
- ・花、緑のあるまちづくり事業

### 1 調査目的

行政執行に対して議会が持つ監視機能を発揮し、もって次年度予算編成  
に議会の意思を反映させることを目的とし、実施するもの。

### 2 調査経過

・平成28年 5月27日 議会運営委員会  
閉会中の各常任委員会所管事務調査において事業評価を行うことを決定。

・平成28年8月

建設産業常任委員会を計2回開催。執行部への質問については、委員  
会開催前に資料要求を行った。委員会では事業ごとに執行部による事業  
概要の説明、質疑応答、委員間討議を行った。各委員の評価を記載した  
事業評価シートをもとに事業評価一覧表を作成し、委員会としての事業  
に対する評価をまとめた。

### 3 事業評価結果

別紙一覧表のとおり

平成28年度 事業評価一覧表

委員会	建設産業常任委員会						
所管課	農業振興課	事務事業名 大井貯水池対策事業					
個別事業名	大井貯水池対策事業						
事業の目的	昭和45年竣工当時のダム設計基準を現在の河川砂防技術(案)を満たすための補強を図る。						
政策発生源(1)	<input type="checkbox"/> トップダウン ↓ <input checked="" type="checkbox"/> ボトムアップ ↑	経緯・背景(2) 市上水道の水源池の廃止に伴い、水道事業としての取得水利権が消滅することから、大井ダム建設当時(昭和45年)地元との協約書に基づき農業用水の水利権を取得し、下流域に農業用水を供給するために活用を図る。					
他市比較(3)	<input checked="" type="checkbox"/> 本市のみ <input type="checkbox"/> 他市事例あり	市民参画(4) <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有(実態)					
総合計画(5)	<input checked="" type="checkbox"/> 整合性あり <input type="checkbox"/> 整合性なし	財源措置(6) 一財( 5%) 補助等( %) 起債( 95%)					
将来コスト(7)	H28予算:61,351千円 H29予算:25,700千円 H30予算:13,200千円	H27決算額 55,376千円					
評価者	必然性(公共性)	必要性	成果	費用対効果	合計点数	総合評価	今後の取り扱い
小島委員長	B	B	B	B	80	B	地元や県と協議し事業を実施していただきたい。また、今後の事業計画については再検討を求める。
北崎副委員長	C	C	B	C	65	C	次年度以降の計画の中で釣川取水ポンプ場については、必要性がないのではないかと考える。
末吉委員	C	C	D	D	50	D	農業用水の確保の観点から、あえて不必要な事業は削減(見直し)を行うべきである。
岡本委員	B	B	C	B	75	B	事業目的として下流域の灌漑用水としての利水強化、農業者への水利の維持管理負担を軽減し、下流周辺の人命・財産やライフラインへの影響を軽減するとあるが、そのための課題、解決の具体策を明確に示すべき。
高原委員	C	B	C	C	65	C	地元との話し合いを含めて、将来的な事業の方向性を検討するべきである。
吉田委員	A	B	B	D	75	B	地元、農事組合と協議し、事業を計画的に進めていただきたい。



今後の取り扱いに関するコメント	次年度予算レベル	
事業の背景にある大井ダム建設当時の地元との協約書に基づく農業用水の確保については必要であると考え、今後の改修計画を見ると事業費もかさむことから、下記の事業については、施設の在り方、費用対効果を検証し、再検討を行うこと。  ・平成30年度計画【灌漑ポンプ改修事業(釣川取水ポンプ施設改修)】	A: 拡大	<b>B</b>
	B: 改善	
	C: 縮小	
	D: 廃止(休止)	

平成28年度 事業評価一覧表

委員会	建設産業常任委員会						
所管課	建設課	事務事業名	大井ダム跡地整備事業			個別事業名	大井ダム跡地整備事業
事業の目的	大井ダム周辺を整備し、東郷地区の憩いの場と人の賑わいを創出する。						
政策発生源(1)	<input type="checkbox"/> トップダウン ↓ <input checked="" type="checkbox"/> ボトムアップ ↑	経緯・背景(2)	平成22年5月水道用機能を廃止して農業用貯水池として活用することを市の方針とした。これに伴い大井ダム周辺の整備を行うこととした。				
他市比較(3)	<input checked="" type="checkbox"/> 本市のみ <input type="checkbox"/> 他市事例あり	市民参画(4)	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有(実態)				
総合計画(5)	<input checked="" type="checkbox"/> 整合性あり <input type="checkbox"/> 整合性なし	財源措置(6)	一財( 3%)    補助等( 40%)    起債( 57%)				
将来コスト(7)	H27繰越予算: 38,836千円    H28予算: 61,351千円    H29予算: 25,700千円    H30予算: 13,200千円			H27決算額	41,163千円		
評価者	必然性(公共性)	必要性	成果	費用対効果	合計点数	総合評価	今後の取り扱い
小島委員長	B	B	B	B	80	B	平成31年度を完成年度としているが、今後も地域住民としっかり意見交換会等を行いながら進めていただきたい。
北崎副委員長	B	B	B	B	80	B	事業目的の東郷地区の憩いの場と人の賑わいを創出することにもっと着目すべきである。歩道の延長、多目的グラウンドの活用など再検討すべきである。
末吉委員	C	D	D	D	45	D	多目的広場整備は再検討すべきである。
岡本委員	B	B	C	C	70	C	地元住民の意見が集約できていないという課題もあるため、その課題をいつまでに解決するのか、事業対象者は誰なのかを明確にすべきである。
高原委員	B	C	D	D	55	C	「域外からの来訪者や市民が自然に触れ合える場にする」が目的となるのか、どのようなことを期待するのかなど、市民の話し合いを含め、十分に検討する必要がある。
吉田委員	B	C	C	D	60	C	完成後は利用したくなるような周知等が必要となるのでそれを見越して事業を進めてほしい。また、周辺の景観を維持することがこの整備事業の価値をあげると考える。



今後の取り扱いに関するコメント	次年度予算レベル	
<p>本事業の目的は、憩いの場の提供と人の賑わいを創出するとあるが、あるべき姿と現状にはギャップがある。地元コミュニティ、自治会と協議を重ね事業の目的を遂行するため、下記の項目については、計画の見直し(廃止)も含め再検討すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度計画(多目的広場整備)については、広場の活用方法、計画の廃止も含め再検討すること</li> <li>・事業目的の観点から周辺の景観保持に努めること</li> <li>・三角公園と連携したダム跡地周辺の遊歩道整備を検討してみてもどうか</li> </ul>	A: 拡大	<b>B</b>
	B: 改善	
	C: 縮小	
	D: 廃止(休止)	

平成28年度 事業評価一覧表

委員会	建設産業常任委員会							
所管課	維持管理課	事務事業名	花、緑のあるまちづくり事業		個別事業名	花、緑のあるまちづくり事業		
事業の目的	市民が生活する市街地(道路や公園など)の緑化を推進し、うるおいのある住環境を形成していく。							
政策発生源(1)	<input type="checkbox"/> トップダウン ↓ <input checked="" type="checkbox"/> ボトムアップ ↑		経緯・背景(2)	年2回、花苗171,000本を市民活動団体や自治会などへ配布し、花壇等へ植えつけをしてもらう。参加団体から優秀な花壇・プランターを表彰する「花いっぱいコンクール」を開催している。				
他市比較(3)	<input type="checkbox"/> 本市のみ <input checked="" type="checkbox"/> 他市事例あり		市民参画(4)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(実態) 市民活動団体、自治会、小中学校、幼稚園、保育園など143団体(H27実績)				
総合計画(5)	<input checked="" type="checkbox"/> 整合性あり <input type="checkbox"/> 整合性なし		財源措置(6)	一財( 100%)    補助等(    %)    起債(    %)				
将来コスト(7)	H28予算:6,994千円    H29予算:7,200千円    H30予算:7,200千円		H27決算額		7,171千円			
評価者	必然性 (公共性)	必要性	成果	費用対効果	合計点数	総合評価	今後の取り扱い	
小島委員長	B	C	B	C	70	C	本事業を否定するものではないが、事業開始以来25年が経ち、事業内容がマンネリ化している感がある。事業内容を見直す時期が来ているのではないかと思う。	
北崎副委員長	C	C	C	C	60	C	花苗171,000本の根拠に欠ける。本事業が20数年経過しマンネリ化の傾向にあるため、花苗の種類、コンクールのあり方について見直す必要がある。	
末吉委員	B	C	C	C	65	C	花苗配布の仕方を工夫すべきである。花苗種類の見直し、また、手入れの負担が少ないハツユキカズラなどの苗配布も検討してはどうか。	
岡本委員	B	C	B	C	70	C	市街地の緑化促進、うるおいのある住環境を形成しているが、事業開始当時に比べ参加団体、住民の高齢化などの背景を考え、負担なく目的が達成出来る方法を考えるべき。	
高原委員	C	D	C	D	50	D	長く続けてきたことで状況が変化していることを踏まえ、課題に対する改善方法、目的の明確化などの検討が必要である。	
吉田委員	C	C	C	C	60	C	コミュニティ等の仕事を増やしているのでは、と感じていたが、市民の方々に尋ねたところ、必要だと感じている方が多かった。事業の意義を広めるため、個人の庭の借景も含めコンクールのあり方を再考してはどうか。	



今後の取り扱いに関するコメント	次年度予算レベル	
<p>本事業は25年経過し、現状、花苗の配布事業となっている。また、参加団体についてもメリット、デメリットの事情があり、特に高齢者団体等については負担増も見受けられる。花、緑のあるまちづくりは、うるおいのある住環境を形成し、市のイメージアップにつながるが、事業がマンネリ化傾向にあるため、次年度以降については、縮小、廃止も含め、下記の項目について検討を行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加団体、住民の高齢化などの背景を考慮し、負担が少なく事業の目的が達成できる仕組みの構築</li> <li>・花苗配布(種類)の見直しの検討</li> <li>・花いっぱいコンクールの在り方の検討</li> <li>・観光、イベントに結びつけられるような事業展開の検討</li> </ul>	A: 拡大	C
	B: 改善	
	C: 縮小	
	D: 廃止(休止)	